

1. 研究目的

本研究は、短期大学(以下短大とする)図書館が設置母体である短大の経営目標(使命)の達成に貢献できるよう、短大を取り巻く環境を明らかにし、短大図書館の持つ強みを活かした貢献方法を探ることを目的とする。

2. 調査方法

短大の環境については短大の使命達成に関わる「強み(Strengths)」「弱み(Weaknesses)」「機会(Opportunities)」「脅威(Threats)」を調査し、経営者の視点からとらえる図書館の強みを明らかにするために、第三者評価結果の分析¹⁾により抽出した図書館の強みといえる取り組みについて学長の認識を調査した。

調査方法は、平成28年度に学生募集を継続している国内の短大の学長を対象とする郵送による質問紙調査とした。対象となる短期大学数は公立8大学、私立323大学、合計331大学であった。

平成28年7月25日と27日に調査票を発送、9月20日までに98通を回収し回収率は29.6%、有効回答数97通(29.3%)であった。

本調査の主な調査項目は次の2点である。

①短大の使命達成に関わる内部環境(強み・弱み)と外部環境(機会・脅威)

②短大の使命達成に貢献する図書館の取り組み

「①短大の使命達成に関わる内部環境(強み・弱み)と外部環境(機会・脅威)」では、内部環境における「強み」「弱み」、今後5~10年の範囲を想定した外部環境における「機会」として志願者増加、経営の安定につながる要因を、「脅威」として志願者減少、経営難につながる要因を自由回答形式で具体的に述べていただいた。これにより、現場の声から短大を取り巻く現在の環境を明らかにする。

「②短大の使命達成に貢献する図書館の取り組

み」では、第三者評価結果の分析¹⁾より明らかにした図書館の強みである取り組み4件(第5表において*を付与したものと)、短大の使命達成に関係の深い取り組み5件の合計9件(第5表)を提示し、図書館が短大の使命達成に貢献している取り組みについて、複数回答可で選択していただいた。これにより、経営者の視点に基づく図書館の強みを明らかにする。

3. 調査結果

短大の強み・弱み・機会・脅威は、記述内容により分類した(第1表~第4表)。

3.1 短大の使命達成に関わる強み・弱み

強み(第1表)として記述された内容では、「1.専門職業人養成・資格取得」が最も多く回答者の40%以上、「2.地域貢献・地域の学習ニーズに対応」は30%以上、「3.就職」は20%以上が指摘している。短大での資格取得が可能な保育士、幼稚園教諭、養護教諭、栄養士、看護師、歯科衛生士、介護福祉士、自動車整備士といった資格を要する専門職に関して、資格取得が可能であり、地元での就職率も良く、地域を支える人材育成機関として貢献しているという環境が浮かび上がる。

弱み(第2表)として記述された内容では、「1.志願者確保」を回答者の30%以上が指摘している。四年制大学志向、都市部への進学志向に加え、短大が人材育成をしている専門職の志願者減少傾向が背景にある。入学者の学力低下、学生の学力差拡大、社会参画力低下などを含む「2.学生の学力・社会的能力」と、主に狭さ、貧弱さ、老朽化が問題である「3.施設・設備」について、回答者の10%以上が指摘している。

3.2 短大の使命達成に関わる機会・脅威

機会(第3表)として記述された内容では、「1.専門職人材・有資格者の需要拡大」を回答者の40%

第1表 短大の使命達成に関わる強み

	強み	回答率(n=97)
1	専門職業人養成・資格取得	40%以上
2	地域貢献・地域の学習ニーズに対応	30～39%
3	就職	20～29%
4	特色ある教育	10～19%
5	施設・設備	
6	伝統・実績	
7	教職員	
8	少人数教育	5～9%
9	人材育成	
10	教職員との関係	
11	教養教育	
12	キャリア教育・進路支援	
13	多様な学習機会の提供	
14	大学併設	
15	小規模	
16	競合する教育機関の少なさ	
17	学習支援	
18	カリキュラム	5%未満
19	経済的支援	
20	立地	
21	目的・方針	
22	高大連携	
23	大学編入	
24	女性支援	
25	短期卒業	
26	志願者確保	
27	生活支援	
28	学生の学力・社会的能力	
29	情報発信	
30	外部資金導入・事業採択	
31	国際交流	
32	学生満足度	
33	課外活動	

が指摘し、女性の社会参画推進や待機児童問題などの社会状況を背景とする保育士・幼稚園教諭の人材需要の高まりについて最も多く記述されている。回答者の20%以上が指摘した「2.地方創生・地元志向」では、地方創生への期待やそれに伴う地元での進学、就職を推進する機運の高まり、また経済的な事情による地元志向の高まりについて記述されている。

第2表 短大の使命達成に関わる弱み

	弱み	回答率(n=97)
1	志願者確保	30%以上
2	学生の学力・社会的能力	10～19%
3	施設・設備	
4	知名度・認知度	
5	国際交流	5～9%
6	学修範囲・研究内容	
7	財務状況	
8	教員の質・業績	
9	立地	
10	カリキュラム	
11	教職員の少なさ・多忙さ	
12	短期卒業	
13	小規模	
14	競合する教育機関の存在	
15	地域貢献・地域のニーズに対応	5%未満
16	情報発信	
17	留学生支援	
18	経済的支援	
19	人材輩出をする業界の状況	
20	専門職業人養成・資格取得	
21	退学者	
22	多様な学習機会の提供	
23	教員確保	
24	就職	
25	課外活動	
26	情報収集	
27	特色ある教育	
28	大学編入	

多く言及された機会は就職に関する内容である。「3.人材輩出をする業界の状況」としては、保育士や介護福祉士の人材不足、それを解消するための待遇改善の傾向、医療関係専門職や自動車整備士の業界における安定した人材需要などがあげられている。そのような社会状況を反映した「4.求人増加・就職率の高さ」も機会として指摘されている。

また、短大ならではの機会として、「6.短期卒業」という学費を抑えられる点、「12.大学編入機会の増加」という学びのファーストステージの役割を担う点もあ

第3表 短大の使命達成に関わる機会

	機会	回答率(n=97)
1	専門職人材・有資格者の需要拡大	40%以上
2	地方創生・地元志向	20~29%
3	人材輩出をする業界の状況	5~9%
4	求人増加・就職率の高さ	
5	経済的支援	
6	短期卒業	
7	知名度・認知度	
8	特色ある教育	
9	競合する教育機関の少なさ	
10	立地	
11	多様な学習機会への需要	
12	大学編入機会の増加	
13	四大化	
14	設置者の動き	
15	女性の社会進出	
16	高卒就職難	
17	実務教育需要	
18	教養教育再評価	
19	国際化	

げられている。短大が少なくなり選択肢が減少したことによる「9.競合する教育機関の少なさ」も指摘されている。

脅威(第4表)として記述された内容では、「1.競合する教育機関への志願者増加」を回答者の40%以上が指摘している。四年制大学の志願者増加に加え、取得可能な資格で競合する専門学校が存在、新たな高等教育機関の登場が脅威として捉えられている。「3.短大志願者減少・ニーズの変化」も20%以上の回答者が指摘しており、女子の共学志向、短大への期待や人気の低下などが記述されている。

回答者の30%以上が指摘した「2.18歳人口減少・少子化」や「5.教育機関の都市部集中・学生の県外流出」「6.経済状況」などは短大に限定した脅威とは言えないが、その影響を受けやすい立場にあるということが伺える。短大ならではの脅威としては「10.短大卒求人減少」や名門短大も募集を停止する「16.短大数の減少」が指摘されている。

第4表 短大の使命達成に関わる脅威

	脅威	回答率(n=97)
1	競合する教育機関への志願者増加	40%以上
2	18歳人口減少・少子化	30~39%
3	短大志願者減少・ニーズの変化	20~29%
4	人材輩出をする業界の状況	10~19%
5	教育機関の都市部集中・学生の県外流出	
6	経済状況	
7	学生の多様化	5~9%
8	知名度・認知度	
9	他短大の改革	5%未満
10	短大卒求人減少	
11	地域衰退	
12	改革の成果が出ない	
13	施設・設備	
14	教員確保	
15	退学者	
16	短大数の減少	
17	教職員の少なさ・多忙さ	

第5表 使命達成に貢献する図書館の取り組み(強み)

	使命達成に貢献する図書館の取り組み(強み)	選択数 (n=97)	選択率 (%)
a	学習支援・履修支援に関する取り組み *	93	95.9
b	免許・資格取得に関する取り組み	71	73.2
c	教養教育の充実に関する取り組み	65	67.0
d	キャリア教育・進路支援に関する取り組み	56	57.7
e	地域貢献・地域の学習ニーズに応えるための取り組み *	43	44.3
f	ボランティア活動・課外活動支援に関する取り組み *	21	21.6
g	卒業生支援・同窓会連携に関する取り組み *	21	21.6
h	社会人学生支援に関する取り組み	13	13.4
i	公開講座に関する取り組み	18	18.6

*第三者評価結果の分析により図書館の強みと判断

3.3 使命達成に貢献する図書館の取り組み

短大の使命達成に貢献していると回答者の半数以上が選択した図書館の強みといえる取り組みは、「a.学習支援・履修支援に関する取り組み」「b.免許・資格取得に関する取り組み」「c.教養教育の充実に関する取り組み」「d.キャリア教育・進路支援に関する取り組み」であった(第5表)。「h.社会人学生支援に関する取り組み」「i.公開講座に関する取り組み」は選択率20%以下であり、学長の認識において図

書館の強みとは言えないと判断する。

学生の大多数を占める高校からの入学者の教育に関係しない取り組みは 50%以下を示しており、図書館による使命達成への貢献として認められていない傾向がみられる。

4. 考察

4.1 図書館の強みと短大の強み

図書館の強み(第5表)と短大の強み(第1表)の内容に関連があるものは6組確認された。学習支援に関する「a.学習支援・履修支援に関する取り組み」と「17.学習支援」をはじめ、専門職に関するbと1、教養教育に関するcと11、キャリア教育に関するdと12、地域貢献に関するeと2、課外活動に関するfと33である。図書館と短大の強みが重なるということは、短大が強みを活かす時に図書館も積極的に関わることが可能である。中でも図書館の強みとしての選択率が高く、かつ短大の強みとしても回答率が高かったものは専門職に関する「b.免許・資格取得に関する取り組み」と「1.専門職業人養成・資格取得」である。短大の機会としても専門職に関する内容は回答率が高く、強みを活かせる機会として注目したい。

一方、関連する短大の強みがなかった図書館の強みに「g.卒業生支援・同窓会連携に関する取り組み」がある。卒業生のように自分たちの身内だった人々の現況を把握することは、少ない努力で大きな成果を上げることができ、コミュニティにおける自らの位置づけを容易に改善できる分野であるとの指摘もある。²⁾図書館の強みを活かし、短大全体の強みとすることが可能であると考えられる。

4.2 図書館の強みを活かせる機会と脅威

専門職に関する機会に活かすことができる図書館の強みは「b.免許・資格取得に関する取り組み」だけではない。幼児教育科用の「絵本実習書コーナー」を設置する「a.学習支援・履修支援に関する取り組み」、図書館リテラシー教育をキャリア形成に活用する「d.キャリア教育・進路支援に関する取り組み」、学術情報提供の中核として近隣都市の保育者の資質向上に寄与する「e.地域貢献・地域の学習ニーズに

応えるための取り組み」等が第三者評価結果において報告されており、これらは専門職に関する機会に活かすことができると考えられる。

2番目に回答率が高い機会「2.地方創生・地元志向」に関連する図書館の強みは「e.地域貢献・地域の学習ニーズに応えるための取り組み」であり、これは図書館の地域開放が中心となる。施設の開放だけではなく、文献提供等も含む「g.卒業生支援・同窓会連携に関する取り組み」も、卒業生の自県内就職率が高い短大においては地域貢献につながる。地域を離れずにいる卒業生が短大の重要なステークホルダーであるとの認識は、「2.地方創生・地元志向」という機会を捉える上で重要な鍵となる。

短大の脅威(第4表)として指摘された内容のうち、図書館が対策に関わることができるものに「8.知名度・認知度」がある。本調査では選択率が50%以下であった図書館の強みeからiはいずれも短大の外部に開かれた取り組みであり、知名度向上や良好な印象の拡大への貢献が期待できる。

本調査により、図書館が持つ強みを活かせる機会と脅威を把握することができた。短大の使命を意識した文脈において図書館が強みを活かすサービスの方向性を選択することが短大経営に対する貢献になると考える。それにより、経営者に「強みを持つ図書館」として認識されるのではないだろうか。

謝辞

本研究は慶應義塾大学「平成28年度博士課程学生研究プログラム」による補助を受けました。調査にご協力いただいた短期大学学長をはじめ、関係各位に対して篤く御礼申し上げます。

【注・引用文献】

- 1) 山下樹子. “短期大学の使命と図書館：第三者評価結果による分析”. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集 2015年度. 三田図書館・情報学会, 2015, p.65-68.
- 2) P.F.ドラッカー. “理事会とコミュニティ”. 非営利組織の経営. 上田惇生訳. ダイヤモンド社, 2007, p.176-180, (ドラッカー名著集, 4).